

国際教養コースでは、質の高い英語学習や独自の学習カリキュラムにより、英語力を各段に飛躍させることができます。長文や文法はもちろん、日本の教育では重視されにくいスピーキング力やリスニング力もバランス良く鍛えられます。例えば、「Practical English」では、ネイティブの先生のもと、英語でのプレゼンテーションやディスカッション、ペアワークが多く取り入れられました。このような実践練習により、実用的な英語力を身につけることができました。また、探究活動を通して、英語学習だけでなく、主体性や問題解決能力といった人間力も高めることもできました。この授業では、各々が関心のある課題を提示し、その解決に向け実際にプロジェクトを立ち上げます。私の班では健常者と障がい者の隔たりを無くす事を目的とし、盲学校へ行き、生徒達と交流したり、小学生に障がい者スポーツを教えたりしました。時には企業にご協力いただき、試行錯誤を重ね、自らの力で課題解決に挑むことができたこの機会は、非常に価値のある経験となりました。試験科目で実践的な英語力を必要とする推薦入試に挑んだ私にとって、このコースで培った英語力は大きな強みとなりました。また、多様な経験により自分の目標を明確化できただけでなく、受験期には何時間も相談に乗って頂いたり、何度も推薦書や試験対策のライティングを添削して頂いたりなど、先生方の手厚いサポートを受けることもできたことは大きな支えとなりました。

高2の時に行った、半年間のニュージーランド留学が最も心に残っています。環境も、学校制度も、人々の人柄も、日本とは180度異なる未知の世界での生活は、私にとって試練の連続であり、泣いてしまうことも多々ありました。しかし、日本では味わえない刺激的な日々を過ごす中で、自分の成長を確かに感じることができました。正直なところ、最初は何も聞き取れず、話すのも億劫になってしまい、会話がままなりません。そこで勇気を出して視覚障がい者や自閉症の方を対象としたボランティア活動、経験が全くなかったサッカー部でのクラブ活動、ジム通いなど、新しいことにどんどん挑戦しコミュニティを広げました。それにより、性別や年齢を問わず幅広い友達と積極的に会話をするできるようになり、もちろん英語力もあがり、新たな知見を得ることもできました。これは、人見知りで自分から行動することが全くできなかった私が最も成長できた部分だと思います。高校生でこのような貴重な経験をさせて頂いたことで、自分の考え方や性格も大きく変わり、確実に視野が広がりました。今でも話す一生の友達もでき、自立する大変さを学び、多くの人に支えられてきた感謝に気付くことができた半年間は私の宝物です。

勉強と遊びを両立できるところが茨高の良いところです。私は良くも悪くも周りに影響されやすく、そんな私にとって周りの生徒の質が高かったのはとても大きかったです。一人ひとり高い志を持っている仲間達と毎日切磋琢磨して学びを広げていくことで、勉強習慣があまりなかった私でも、自然と勉強する環境に身を置くことができました。受験時にも皆で励まし、応援し合う関係を築くことができたのは、とても心強かったです。勉強だけではなく、多くの人が憧れているだろう青春な高校生活を送るのにも、茨高は最適でした。文化祭やクラスマッチの際には友達とコスプレをしたり、様々なグッズを作ったりなど、念願だったことをやり尽くすことができました。一貫生や高入生、クラス関係なく、多くの素敵な友達に恵まれた3年間は、良い思い出で溢れかえっています。

グローバル化が進み、社内公用語が英語である企業も増えてきている現在において、英語学習は必須であると私は考えています。そのため、大学進学後は英語力にさらに磨きをかけ、+αで自分の強みとなるスキルを身に付けていきたいです。そして外国企業と協力をしながら、多くの人を支えることができる職に就きたいです。